



赤湯中学校 1 年 (現中学 2 年)

遠藤 玲奈さん

「ありがとう、みんな」



「ありがとう、おじいちゃん。大切なことを教えてくれる。」
カエルのエルは、大人になった今でもあの日のことを思い出す。エルがまだ、子供だったころはなした。
エルは、一面に田んぼが広がる、のどかな町の、田んぼの一角に産まれた。さわやかな春の日に、百匹の兄妹たちと。ぼくたちは、田んぼに住んでいるみんなに、見守られながら、お母さんのおなかの中から、卵に包まれてでてきた。その瞬間に、「おめでとう！」
という、言葉が飛び交った。ぼくたちの家族は、大粒のうれし涙をうかべながら、
「ありがとう、みなさん！」
と言った。カエルのおじいさんも、お日さまみたいな笑顔をうかべていた。ぼくたちは、こうして、たくさん祝福され産まれてきた。
この日から一週間、ぼくたち百匹の兄弟は、全員無事に卵からかえることができた。エルは、
「なんて、田んぼは広いんだろう。田んぼのはしからはしまで泳ぐのに、どのくらい時間がかかるかな？今度兄妹みんなで泳ぎたいな。美しい景色を見ながら！」
と、目の前に広がる景色に、心がおどった。
それから、ぼくたちはたくさんのお話を教えてもらった。そう、例えば「いただきます」って言葉。この言葉を教えてくれたのは、ぼくたちのお母さんと、お父さん。後ろ足がはえ始めたころにね。
「今から大事ななしをするよ、私たちのかわい子供たち。胸びれでそっと、そっと体にふれてごらん。」
ぼくたち兄妹はみんな、胸びれで体にそっとふれた。「とく、とく、という音が響いているだろう。そう、それが生きてるってことさ。そして生きているからには、他の生き物の命をいただかないといけないんだよ。そのときに「ありがとう」という感謝の

気持ち伝えるために「いただきます」という言葉を使うんだよ。」
と、命に対する感謝の心を持つことや、「いただきます」を使う意味を教えてもらった。
他にも、「田んぼの稲」と「季節の変化」について、何年もこの田んぼに住んでいるカエルのおじいちゃんに教えてもらったんだ。
「今いる田んぼや田んぼの周りにある山には恵みをもたらししてくれるものがたくさんあるのじゃ。ほれ、周りを見渡してみい。」
と、カエルのおじいちゃんが言った。ぼくたちは辺りを見渡した。そこには、優しいお日さまの光。この光に照らされている青い稲。キラキラと輝く水面。風に吹かれて、ゆらゆらとゆれる木々。
「見て分かったじゃろう。恵みが広がっておる。この稲はまた青いじゃろう。でもな、もうすぐ始まる「夏」という暑い暑い季節をのりこえてな、「秋」という山が赤や黄色に色づく、それはもう美しい季節に、田んぼが黄金色にそまるのじゃ。みんなで見たいのう。」
と、自然の恵みに感謝することを学んだ。エルは、「みんなで黄金色にそまった田んぼをながめたいな！」
と、季節がめぐることにワクワクした。エルは、命や自然について学ぶたび、感謝することを忘れないようになった。エルは、田んぼやみんなのことが大好きだった。
稲の背がのびていくにつれ、ぼくたちはぐんぐん成長していった。そして、お日さまがギリギリと輝く、ある暑い暑い夏の日、エルはどうとうカエルになった。すっかり尾がなくなった、あざやかな黄緑色の体が照らされている。そのことがたまらなくうれしかった。一刻も早く、みんなにみせたかった。そうして歩みを進め始めた。そのときだった。
「見て見ておじいちゃん！って、どうしたのおじい

ちゃん。」
影を見つけてかけよったエルは、おじいちゃんがたおれているのを見つけた。
「おお、エルか。助かった。お医者さん、呼んできてくれるかのう。」
エルは、慣れない足で、必死に田んぼをかけぬけた。大好きなおじいちゃんのために。
「また、おじいちゃんといっしょに、教えてくれた田んぼの景色や、季節が移り変わる様子だって、みんなで見たい。だから、だから、絶対助かってね。」
と思いながら。その後、エルが呼んできたお医者さんにより、おじいちゃんは無事、助けられた。うれし涙が止まらなかった。
その日から数日がたち、おじいちゃんの体調は、だいぶよくなった。あの日、かすれぎみだった声も、今はすっかりもと通り。
「おじいちゃんが元気になってよかった。」
おじいちゃんの看病をしていたエルがそう言った。すると、おじいちゃんが
「あの日、お前が来てくれてよかった。これからもお前たちの成長を、みとけられる。なあ、エルよ。生きていると、当たり前のことが、くずれてしまうことがある。わしがたおれた時のようにな。でもな、どんなことがあっても、みんなで支え合って生きているということ、命、自然に感謝をすることを忘れずに、生きていくんじゃよ。」
「ありがとう、おじいちゃん。ぼくに、大切なことを教えてくれて。教えてくれたことを心にいれて、大切に毎日を生きていくね。そして、季節が移り変わる様子も、おじいちゃんが教えてくれた景色も、いっしょに見ようね。これからもよろしくね、おじいちゃん！」
そう言って、ぼくとおじいちゃんは、お日さまのような笑顔で笑い合った。

市長の コラム

No. 52



国の支援を得て市の負担を減らす

今年1月、埼玉県八潮市で、老朽化した下水道管が破損し、大規模な道路陥没事故が発生したことは、ニュースで皆さんご存知だと思います。

下水道をはじめ公共施設の維持は多額の費用がかかるため、市では公共施設を再編しています。例えば農業集落排水の下水道への統合を進めていて、それにはざっくり1億円近くかかり、全て市の負担になる見込みでした。ところで、様々な会合で出張しているなりに、毎年東京で開催される「下水道事業を考える首長懇談会」というものがあります。県内35市町村で参加しているのは南陽市長だけです。

その場で私から「農業集落排水の下水道への統合費用を支援してほしい」と意見を述べたところ、国土交通省の下水道に関する責任ある立場の方から後日回答があり、国から約5千万円の支援を得ることができ、南陽市の負担が約5千万円減りました。

一回の出張には新幹線の往復だけでも約2万円かかりますが、財源や情報を得ることは、市政運営に必要不可欠です。だから、首長の果たす役割として、市のために脚を使います。

おススメの一冊「えくぼの本棚」

『新・教場 2』 長岡弘樹／著 小学館／発行

かつて刑事指導官・風間を襲った男を逮捕した「風間道場」の門下生たち。警察学校の四方田は、立派な刑事へと成長した彼らによる「風間教場」での特別講義を考えるが…。『教場』映画プロジェクト原作となる、『教場シリーズ』の最新刊



新着図書紹介

※他にも多数の新着図書を取りそろえています。

一般書

- 天下の値段／門井慶喜 ■暴走正義／下村敦史
- 本でした／又吉直樹・ヨシタケシンスケ
- 地図で読み解く日本の新交通システム／川島令三

児童書

- ひとつひとつのいのちに／マーラ・フレイジー
- ルッキズムってなんだろう？／西倉実季
- 小泉セツとハーンの物語／三成清香

食改さんの おすすめレシピ♪

「ベジアップ」編

野菜たっぷりドライカレー

材料(4人分)

- 鶏ひき肉 200 g
- 玉ねぎ 140 g
- にんじん 80 g
- ピーマン 20 g
- 大豆水煮 40 g
- 野菜ジュース 400cc
- カレールウ 2 かけ
- ごはん 130 g × 4
- ブロッコリー 60 g
- ミニトマト 4個



市食生活改善(母子保健)推進員連絡協議会
◆事務局・すこやか子育て課すこやか係
(☎40-1691)

作り方

- ①玉ねぎ、にんじん、ピーマンは粗みじん切りにする。
- ②フライパンに鶏ひき肉、①、大豆水煮、野菜ジュースを入れほぐすように混ぜる。
- ③②のフライパンを加熱し、木べらで混ぜながら火を通す。8～10分程煮たら、火を止めカレールウを加え、よく混ぜて溶かし弱火で5分ほど混ぜながら煮込む。
- ④ブロッコリーは小房に分け茹でる。ミニトマトはへたを取り洗って、4等分に切る。
- ⑤皿にごはんを盛り付け、③を盛りつけ、周りにブロッコリーとミニトマトを飾る。

1人分当たり栄養価

エネルギー 410kcal
たんぱく質 13.7 g / 脂質 10.1 g / 食塩相当量 1.3 g

ワンポイント

多めに作って、冷凍保存することもできます。いつでも食べられるので便利です。



中川地区食改の皆さん